

---

# 少年ルタン

Beykun

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年ルタン

### 【コード】

N4896I

### 【作者名】

Be y k u n

### 【あらすじ】

少年ルタンの成長型物語。

## 冒頭

### 少年ルタン

ある少年がいた。その名はルタン。知る人ぞは彼のことを「時を司る者」、即ちルシファー、若しくはサタンと呼ぶこともある。彼はいつまでも少年の姿でいた。それはまるで年齢不詳の、しかし、確かに少年ではあると思わせる、姿形であった。しかもその姿形たるや、まるでギリシヤ彫刻を連想させる、しかしアジア人の血の通うことを確かめさせるものである。もし彼の生い立ちを知ることが出来たら、彼のことがかもつとよくわかる。そう、彼は至って稀な心性の持ち主であり、彼は神を心から愛していた。しかし、神は彼の放蕩振りを鑑み、彼をこの世にしばし閉じ込めたのだ。この物語はこのようにして始まる。

「ルタンや、早く起き……。」

夢の世界から彼を現実へと引き戻したのは、彼の生みの親、ルミである。

「もうちょっと……。」

そういうのを聞くと、ルミは部屋のカーテンを開け、光が好き放題差し込むのを許した。さらに、それでも足りないのか、ラジオのボタンを押し、うるさくもなく、程よい音量に合わせた。そして、部屋を去った。

程なくして、大量に注ぎ込む光に不快感を感じ始め、ルタンは布団の中でもぞもぞする。

「仕方ない。起きようか……。」

そう思う僕は、重たい上半身をベッドの中で起こし、次に入ってくる言葉に一気に耳を張った。体が凍て付く。

「今日のニュースです。我が国ラシファルは今日をもって、ゾー卜国と併合することになりました。国王よりの正式な発表は今日の午後2時より行われます。皆さん、心して聞かれますように……。」

「僕は我を疑った。今聞いた言葉は本当か？母は知っているのか、既に？」

僕は着替えるもなく、寝巻き姿のまま、急ぎ足に階段を駆け下りた。母の姿がいつもの台所に見当たらない。ふと、左を見ると……。

そこに母が悲しそうに祖父ファーンの遺影に、祈りを捧げていた。僕はおそろおそろ、近寄る。

「お母さん……？」

「あ、ルタンや、おはよう。ちょっと大事な話があります。」  
その大事な話やらの内容に見当がつくから、嫌だ。話すことが嫌なのではなく、母の悲しそうな様子を見るのが、心苦しい。僕は「うん、わかった。」といい、台所へ向かった。

ルタンは台所の木で出来た、楕円形の手作りの机に、椅子を内側より引き寄せ、そこに座った。母、ルミはしばし遺影と向き合っていると決するか、ルタンのもとへと歩を進める。

僕の心の内は複雑だ。ひねくれているとも思わないが、時として二重にも三重にも考えてしまい、心が思い通りに意思の方向へと往かないのを、またしても感ずる。というのは、得てしてポジティブな意思が物事を良い方向へと誘導したがるのだが、僕の感性は既に時として結果をしつてか、その誘導に反する。そこに葛藤が生じるのだ。良い方向に意思を向けようとすると、「いや、そうではないかも。」と反思が働くのだ。やはり、過意識は禁物である。

このようにして、奇怪な心の内をその身のみに閉じ、ルトンは母の悲しそうな顔を眺めたとき、自らもその悲しさに共感する。

「おおよその見当はつくけど、つまり国の存亡に関わること？」  
ルミは、いつにも増して聡明な我が子に、しばし呆気に取られながらも感心する。

「そうよ。いつ聞いたの？それよりあなたがた考えるよりもさらにことは大きいのよ。あなたの出生に係わることなの。」

出生？どういうことだ、僕はお母さんと父さんの子ではないのか？

「ルトンや、あなたは私を本当の母だと思ってきたでしょうね。  
だけれど、本当のところは違うのよ。あなたの母親は誰も知らないの。あなたが小さな赤ちゃんのとき、満天の星空のある冬、ふと流れ星が流れたのを宮廷の窓から見かけた当時の私は、どういうわけか、ふとその流れ星の落ちた方向へ目を向けてやろうと外に出てみることにしたの。そこにあなたが、玄関に大切そうに白い毛布に包まれているのをみつけたのよ。私は驚きのあまり、けれどあなたの健気なかわいさの故、あなたを思わずその夜の内に私の両親の家に届けたわ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4896i/>

---

少年ルタン

2010年10月17日02時50分発行